

平成 30 年 3 月 13 日
観 測 部

気象観測に関する国際ワークショップの開催について

アジア各国の観測データの品質向上を目指して

アジア内の国家気象機関の観測担当者を対象に、気象観測データの品質管理能力の向上をはかる国際ワークショップを、平成 30 年 3 月 19 日（月）から 23 日（金）にかけて東京及びつくばにおいて開催します。

適切な防災情報の発表や温暖化などの気候監視には、品質の良い観測データが必要です。一方、世界気象機関（WMO）第 1 地区（アジア）においては、特に途上国の国家気象機関における気象観測データの品質管理能力の向上が課題となっています。

このため、気象庁は、WMO が推進する WMO 統合全球観測システム（WIGOS）の取り組みとして、アジア各国を対象に品質管理に関する国際ワークショップを過去二回実施してきました。

第三回目の今回は、アジア内の 12 か国及び 2 機関から 28 名が参加して、防災に特に重要な雨量観測をテーマとした研修を行うとともに、観測データの品質改善並びにそれらを活用した防災気象情報の強化に向けた議論を行います。

アジアの途上国では例年台風や大雨により多くの人命が失われています。当庁では今後も、防災や気候監視の基本となる気象観測の品質向上に向けて積極的に貢献していきます。

〔国際ワークショップ参加国及び機関〕

アラブ首長国連邦(UAE)、カンボジア、スリランカ、タイ、中国、バングラデシュ、パキスタン、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、モルディブ、ラオス、世界気象機関（WMO）、CIMO リードセンター（ジェノバ大学）

問合せ先：観測部 計画課 担当 平野・蠣原

電話 03-3212-8341（内線 4126・4183） FAX 03-3211-7084

WMO 統合全球観測システム（WIGOS）と気象庁の取り組み

1．WMO 統合全球観測システム（WIGOS）とは

WMO 統合全球観測システム(WIGOS)とは、世界気象機関(WMO)が世界気象監視計画（WWW）のもと実施している既存の全球観測システム（GOS）に加え、全球気候観測システム（GCOS）や全球大気監視計画（GAW）など様々な枠組みで実施している観測システムから得られた観測データを統合的に扱い、分野横断的な利活用を図る取り組みです。

WIGOSの主目的は、観測に関する参加国の相互のニーズに応えることで、参加国には観測測器やシステムの定期保守、観測地点や測器に関する情報の管理、観測データの品質管理を実施することが求められています。

2．気象庁の取り組み

世界気象機関（WMO）第 地区（アジア）では、特に途上国の国家気象機関における観測データの品質管理能力の向上が課題となっており、気象庁はWIGOSの取り組みとして、国際ワークショップを過去2回実施してきました。

平成22年（2010年）7月に気象庁本庁（東京）で開催した第1回ワークショップでは、アジア各国における観測業務の実施状況をまとめ、主要な課題は、測器の校正及び保守管理、観測実施者の育成であることを明らかにしました。

平成25年（2013年）2月には、気象測器検定試験センター（つくば）で第2回ワークショップを開催し、測器の保守・校正の実習を中心とした技術指導を行っています。基準となる測器との比較をはじめて経験した参加者も多く、各国の測器の維持管理能力の向上に寄与しています。

さらに、各国における課題を深く分析するために観測データの品質管理及び観測環境の維持の実施状況に絞って平成28年（2016年）にアンケートを実施しました。その結果、特に雨量観測所の保守、観測環境の維持管理、雨量データの品質管理に苦慮している現状が把握できたことから、この度、雨量観測に焦点を当て、3回目となる国際ワークショップを開催します。



過去のワークショップの様子

今回の参加国の雨量計の点検の様子